

# 「グローバルな役割」強調、物流経験も

## ■中部国際空港会社・籠橋次期社長会見

中部国際空港会社の次期代表取締役社長に内定したトヨタ自動車出身の籠橋寛典氏が30日、中部国際空港（セントレア）で会見した。空港運営のビジョンについては、回答するにはやや時期尚早と前置きしつつ「まずひとつは安全で使いやすい空港にすること。健全で持続性の高い空港経営をすること、そして、そのために地域の皆様と共に地域の魅力をより多く発信し、利用旅客を増やしていくことは普遍的に変わらない、セントレアの大事な点だろうと考えている」と説明。良いところを引き継ぎ、成長を目指す考えを示した。また「中部圏は製造業をはじめグローバルに展開している企業が多い。その中で、貨物も含め（セントレアの）役割がある。一方で、インバウンドなど旅客に対し魅力を訴求し、（便数・旅客数を）増やしていくことが課題」との考えを示した。



犬塚力社長と籠橋寛典次期社長

籠橋氏は2月1日付で中部国際空港会社の特別顧問に就任する。代表取締役への就任は、6月26日に開催予定の定時株主総会、取締役会での承認、国土交通大臣の許可を経て正式に決定される見通しだ。トヨタ自動車では、2015年1月生産管理部長、16年4月Toyota Compact Car Company 統括部長、17年4月常務理事生産管理本部物流領域長兼本社工場長、18年1月生産企画本部生技管理領域長・物流領域長、同年3月BR米国合併新会社準備室長およびマツダ・トヨタ・マニファクチャリング・U.S.A.のエグゼクティブ・バイス・プレジデントに就任している。

これまでのキャリアを振り返り、「トヨタ自動車ではこの20年、世界を飛び回り、さまざまな部署での業務を経験してきた。特に新しい組織、会社、新しいメンバーと共に立ち上げる仕事が多かった。良いチームを作り、同じ目的に向かって皆と進めていくということが一番の自分の強みだと考えている」などと語った。

また、「なかでも物流では、（17年に）物流領域長として、物流全般を統括していた。物流領域は大きく、自動車部品の管理部署と、完成車の国内外への配送を手掛ける車両物流、サービス部品を販売店に届けるサービス部品物流がある」と説明。航空輸送需要の開拓可能性については「（物流領域担当時代の経験を振り返り）基本的には、コストの低い海上輸送を利用して海外に部品を輸送する。ただし緊急性の高い、短いリードタイムが求められる貨物については、航空輸送は大変ありがたい存在だ。細かくニーズを聞いていけば広がっていくチャンスはあるのではないかと述べた。

### 犬塚社長 「新体制で飛躍的な成長へ」

会見に列席した犬塚力社長は、「2019年に現職に就任してから現在までの6年間を振り返ると、19年度は旅客数便数が過去最高を更新して絶頂期。半年余りでコロナ禍に直面3年あまり大変厳しい環境が続いたが、回復

期を見据えた種まきを行い、23年度に本格的な回復基調に戻すことができた。25年現在、次なる成長に向け着実な歩みを進める中、来月に開港20周年を迎える。こうした中、次なるステージで更なる飛躍的な成長を目指していくために、若さと強いリーダーシップのもと新しい体制で取り組んでいく必要があると考えたと説明。

また、籠橋次期社長について、「トヨタ自動車での海外を含む豊富な経験もあり、今後のセントレアの成長、変革期において指導力を発揮して頂けると期待している」として、自身については、「何らかの格好で新体制を支えていきたい」とした。

貨物利用への期待感については「貨物便は（コロナ禍以前と比較して）倍増している。何が足りないかというオペレーションスペースが足りない。本来は中部利用が好ましい貨物が、大阪、東京に流れてしまっている。まずは旅客便が回復することが成長につながる。最大の課題がそこにある。それがうまくいけばすべてうまく回りだす」との考えを示した。